

くまもと

☎ 議会だより

91号
2018.10.25



待ちに待った!!
実りの「秋」

10月2日 一勝地小学校 稲刈り風景

も く じ	9月の定例会	2~3
	決算審査特別委員会報告書	4
	大雨による災害現場視察	5
	一般質問における発言の要旨一覧	6
	一般質問	7~13
	ふるさとの味と、故郷の笑顔	14

補正予算1億9,114万円を可決

第6回9月定例会は、9月5日から13日までの9日間の日程で開催され、平成29年度の財政健全化判断比率及び資金不足比率報告1件、平成29年度の一般会計及び特別会計決算認定5件、条例制定1件、規約の一部変更1件、計画変更1件、平成30年度一般会計及び特別会計補正予算4件、選任同意1件、工事請負契約締結1件が原案のとおり承認、可決しました。

一般質問では、7人が登壇し、各種施策や行政課題について執行部の考えを質しました。最終日には、任期満了に伴う球磨村教育委員会委員の選任同意について、中井久美氏が再任されました。また、議員発議で、「臓器移植の環境整備を求める意見書」案が上程され可決されました。

定例会初日の5日は、まず6月定例会以降の諸般の報告、例月出納検査結果報告、人吉球磨広域行政組合議会の報告、人吉下球磨消防組合議会の報告を行いました。

続いて、平成29年度財政健全化判断比率及び資金不足比率の報告1件、平成29年度の一般会計及び特別会計の決算の認定5件、条例制定1件、規約の一部変更1件、過疎自立促進計画の変更1件、平成30年度一般会計及び国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、簡易水道特別会計の補正予算4件、教育委員会委員の選任同意1件の14議案を上程しました。

また、平成29年度の一般会計及び特別会計の決算の認定

平成30年度一般会計補正予算を審議、可決

補正予算では、平成30年度の一般会計の補正予算を原案のとおり可決しました。

主なものは、介護予防拠点施設整備事業、緑の産業再生プロジェクト事業、7月の梅雨前線大雨の影響により被災した村道、林道等の災害復旧工事など、1億9,114万7千円を追加し、歳入歳出総額37億7,566万4千円となりました。

一般質問

一般質問は、10日と11日の2日間行われ、初日は、田代利一議員、犬童勝則議員、舟戸治生議員、小川俊治議員の4名、2日目は、東純一議員、嶽本孝司議員、松谷浩一議員の3名が登壇。

美しい球磨村づくり、7月豪雨の被害状況、ふるさと納税、農業振興、防災減災対策、高齢者福祉、村活性化計画、道路の整備、行政区再編後の現状と課題、高齢者福祉計画についてなど多岐にわたって執行部の考えを質しました。

(詳細は6頁～11頁に掲載)

また、初日には、防災、減災ソフト対策事業として進めている「峯川河川整備工事の請負契



継続される峯川河川整備工事

約の締結について」が、最終日には議員発議による「臓器移植の環境整備の提出について」が、追加上程され、いずれも全会一致で可決しました。

意見書の提出については、国に対し、臓器移植の環境整備の充実を求めるものです。

9月定例会 議案等の審議結果

日程	議案番号	件名	結果
第1	報告第3号	平成29年度財政健全化判断比率及び資金不足比率について	報告
2	認定第1号	平成29年度球磨村一般会計決算の認定について	原案認定
3	認定第2号	平成29年度球磨村国民健康保険特別会計決算の認定について	原案認定
4	認定第3号	平成29年度球磨村後期高齢者医療特別会計決算の認定について	原案認定
5	認定第4号	平成29年度球磨村介護保険特別会計決算の認定について	原案認定
6	認定第5号	平成29年度球磨村簡易水道特別会計決算の認定について	原案認定
7	議案第30号	山村振興法に基づく産業振興施策促進地域における固定資産税の課税減免に関する条例の制定について	原案可決
8	議案第31号	熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更について	原案可決
9	議案第32号	球磨村過疎地域自立促進計画の変更について	原案可決
10	議案第33号	平成30年度球磨村一般会計補正予算について	原案可決
11	議案第34号	平成30年度球磨村国民健康保険特別会計補正予算について	原案可決
12	議案第35号	平成30年度球磨村介護保険特別会計補正予算について	原案可決
13	議案第36号	平成30年度球磨村簡易水道特別会計補正予算について	原案可決
14	議案第37号	工事請負契約の締結について	原案可決
15	同意第2号	球磨村教育委員会委員の選任同意について	原案同意
16	発議第4号	臓器移植の環境整備を求める意見書の提出について	原案可決

決算審査特別委員会報告書

決算特別委員会 委員長 高澤 康成
副委員長 松野 富雄

平成 29 年度の一般会計や特別会計を審査するため、議員全員で構成する決算審査特別委員会を設置しました。委員長に高澤康成議員、副委員長に松野富雄委員を選出し、9月6日から7日までの2日間、決算書並びに関係資料を担当課の説明を求めながら審査しました。なお、決算特別委員会でまとめた主な意見は次の通りです。

総務課

- ① 情報通信料及び住宅使用料において、滞納者へ内容証明郵便、書留郵便により確実な督促通知と自宅訪問による徴収方法に努め、相手方と確実な連絡体制を図り、時効成立にならないよう努めてもらいたい。
- ② 消防団の団員定数、再編を含め、今後のあり方や団員報酬、手当の適正な支給方法を検討願う。

税務課

- ① 納税の公平性の観点から、今後も収入未済額の減少、不納欠損にならないよう分納誓約書など対策をとり徴収努力をお願いする。

企画振興課

- ① 一勝地交流センターの運営について、出資金4,000万円、貸付金1,000万円、指定管理委託料年間864万円に対し、単年度当期利益635万円である。コンサルティングの改善指摘も含め、目に見える改善、利益を追求していただきたい。
- ② 地方創生事業も増えてきており、事業内容から本来の課の分掌事務に基づき目標の達成、他の課との連携等が必要と考えるので検討願う。

住民福祉課

- ① 介護予防における介護支援ボランティアについては、村民へボランティアの重要性を伝え、次の世代に繋げることが重要であると考え、取組みや育成の支援に努めていただきたい。

健康衛生課

- ① 平成 30 年度より簡易水道渡配水区配水管布設替工事が始まる。工事にあたっては、住民への周知、確実な工事を進め、住民に対して安心安全な水の安定供給、促進に努めていただきたい。

産業振興課

- ① 有害鳥獣被害対策について、被害軽減対策として、防護柵設置は有効と考えるので、引き続き、要望や被害状況に合わせた事業実施ができる環境整備を願う。
- ② 法正林化事業については、売上金額2,655万円から伐採委託料1,400万円、市場への手数料等264万円、除伐費(調査用)158万円を差し引けば、利益は833万円となる。苦勞して植え育てられ、長年の歳月をかけ立派に成長した山林の対価とすれば、はたして妥当なのか。事業の実施において公売方法をとるなど、法正林化事業の目的、住民へ還元する観点から、今後の事業実施に向けた検討を願う。

建設課

- ① 地区からの道路改良等要望がある路線については、予算と見比べ、早めの整備を検討願いたい。また、道路の維持、補修についても迅速な対応を願う。
- ② 公共工事における、工期延長は業者主導となっていないか。適正な工期設定、工期延長については十分に協議を行うなど対策を願う。

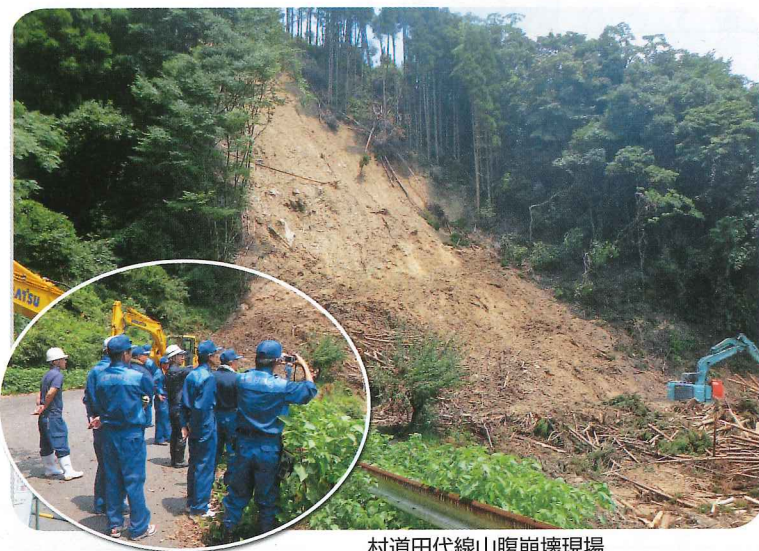
教員委員会

- ① 通学路安全対策委員会については、全国的に通学路における事故が発生している中、通学路点検等、特にブロック塀のある通学路の調査等、早急な対応を願う。
- ② ICT教育については、諸問題に対する指導が必要であるので十分な対応を願う。

大雨による災害現場を視察

平成30年7月17日午後1時より「球磨村議会全員協議会」を開催し、7月6日～8日の梅雨前線大雨により被災した村内の災害現場の状況について視察を行いました。

また、9月定例議会の一般質問においても被災した箇所現在の復旧状況等について質問が行われました。



村道田代線山腹崩壊現場



神瀬四蔵地区山腹崩壊現場



県道高沢一勝地線土砂流出箇所



村道渡大槻線路側崩壊

一般質問における発言の要旨一覧

質問者	質問の要旨
田代利一議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 美しい球磨村づくり ② ズビエ加工施設現場 ③ 球磨村の豪雨災害状況
犬童勝則議員	<ul style="list-style-type: none"> ① ふるさと納税 ② 空き家対策 ③ 農業振興
舟戸治生議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 減災 ② 地域防災計画 ③ 高齢者福祉 ④ 一人暮らし高齢者及び家族の経済問題 ⑤ 認知症になっても安心して暮らせる体制づくり ⑥ 高齢者向け住宅
小川俊治議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 人口、高齢化率、生産人口の推移 ② 活性化計画の実績と評価（地方創生施策を含む） ③ 新たな施策の計画
東 純一議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 中山間地域直接支払制度及び多面的機能支払交付金の利活用の状況 ② 地域地区における防災取組状況 ③ 国道・県道等の改良、改修 ④ 郷土芸能の保全
嶽本孝司議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 7月6日～8日の豪雨時における災害対応 ② 21行政区編成後の現状と課題
松谷浩一議員	<ul style="list-style-type: none"> ① 福祉有償運送事業の進捗状況 ② 低所得者の負担軽減策 ③ 要支援、要介護認定の平準化に向けての取組み ④ 高齢者向け住まいの重要性 ⑤ 各地区避難所の安全確認と避難状況 ⑥ 道路工事等による通行止め箇所の福祉車輛の通行

美しい村づくりの費用対効果は



答 経済効果、費用対効果等であらわすことは困難

田代議員 「日本で最も美しい村」連合へ加入し5年、振り返りどのように感じておられるか、どのように費用対効果をもたらしたのか。

柳詰村長 美しい村づくりは、景観整備のみにとどまらず、共助による助け合い、心豊かに過ごせる社会の実現など多岐にわたる。経済効果、費用対効果等であらわすことは困難。今後、さらに美しい村づくりを村民の皆さんに周知しつつ、美しい景観づくりのみならず真の美しさを実感できる村づくりを推進したい。

田代議員 景観整備隊の仕事内容は。

高永企画振興課長 国道を中心とした草払い、ごみ拾いや小中学校の危険な所の草払いなど公共施設周辺の整備を行っている。

田代議員 県道もお願いしたい。村の行事でエメラルドグリーンでは県道も整備される。他のところはできないのか。

高永企画振興課長 現在の2名体制では行き届かない状況。

田代議員 白砂線廃土置場の整備は。

柳詰村長 柳詰砂防工事での廃土仮置き場としている。砂防工事が終われば元に戻すと思う。その後整備となるが今のところ予定は決めていない。

田代議員 景観スポット鬼の口棚田の案内板の設置は。

高永企画振興課長 県道沿いにはあるが、白砂線にはない。検討したい。

田代議員 共助の村づくりでの補助内容が変更になったのか。区長会での詳しい説明をお願いしたい。

高永企画振興課長 人件費についてはカットし、高額な消耗品については自費でお願いしたい。毎年の区長会でも説明している。

田代議員 ズビエの活用で販路の開拓や地産地消の面から学校給食に利用できないか。

柳詰村長 ズビエの学校給食の利用は、平成22年から26年の5年間で14万円の売上げ。30年度1学期、2学期に利用が計画されている。

田代議員 持ち込みが減少しているがなぜか。委託費払う分は販売で補うようにしなければならぬと思うが。

柳詰村長 委託費をズビエの里協議会に支払っているが出荷が少なく、販路拡大もできていない。協議会として努力をお願いしたい。

田代議員 村長出張時の災害対応は。

柳詰村長 出張前に防災管理官と打合せを行い、出張先からの連絡を取り指示している。災害が多い時期、特に7月前半は少し検討と肝に銘じている。

田代議員 村道大槻線の復旧のめどは。

上郡建設課長 査定が10月以降であり、工法もそこで決まる。工事にも全面交通止めかとの見通し。



田代 利一 議員



the most beautiful villages in japan

ふるさと納税の評価は

答 返礼品が増えることで村内産業の活性化と、所得の向上につながることを期待している

犬童議員 ふるさと納税は寄付することで税金の一部が控除され、寄付額に応じた返礼品を選べる仕組みで、全国の自治体で財源の確保、事業推進に有効な手段として取り組んでおられる。そこで本村の本年度の目標額、また、昨年度の実績は。

柳詰村長 本年度は、返礼品開発等の一部事務を業務委託するなどして、寄付額の目標を8千万円と大きく掲げた。

高永企画振興課長 平成29年度の実績は187万円の寄付金をいただいている。また、昨年からカード決済による寄付も受け付けており、カード決済の寄付による効果が出るのを期待している。

犬童議員 本年度の返礼品の上位は。

高永企画振興課長 一番多いのが鹿肉、そして棚田米、イチゴが上位を



ふるさと納税返礼品

占めている。

犬童議員 本年度の目標額8千万円の達成は可能なのか。

高永企画振興課長 業者と企画振興課職員が結になって目標達成に向けて努力していく。

犬童議員 空き家対策については、空き家バンク制度を創設され、これ



犬童 勝則 議員

犬童議員 近年、耕作放棄地が至るところで見受けられる。農地を守る分野からも、地域の活性化のためにも、有効に活用すべきだと考えているが、村として耕作放棄地への具体的な対応、対策は。

まで取り組んでいるところだが、本年度は移住、定住関係の地域おこし協力隊が着任され、本格的に活動されている。空き家バンク制度の内容は。

柳詰村長 空き家バンク制度は空き家を活用してほしい登録者、利用したい利用者がそれぞれ登録をいただき、不動産業者である仲介業者がマッチングを行なうものである。

犬童議員 全国的な流れとして、地域おこし協力隊を受け入れる自治体が増えている。農業支援に関する協力隊を募集している自治体もあるが、今後、本村において、農業支援関連の協力隊を募集する計画はあるのか。

柳詰村長 今のところ、考えていない。

境目農業委員会事務局長 耕作放棄地の対策には、遊休農地の発生防止、解消に努めなければならぬと考えている。農業委員会としても認定農業者と担い手の農地利用の集積、集約の働きかけを行なっていく。

犬童議員 球磨村猟友会の現在の駆除会員数、平均年齢は。

犬童産業振興課長 有害駆除隊員数が45名で編成されており、平均年齢は67才である。

犬童議員 鳥獣害対策で一番大切なのは、農業と生活環境整備を組み合わせた総合的な取り組みが必要だと思いが、生活環境被害防止対策は行政として指導しておられるのか。

犬童産業振興課長 熊本県においても「えづけストップ」鳥獣被害対策事業が実施されており、本村でも講師を招いての講演会を実施している。

豪雨洪水時、堤防やダムなど ハード施設による対応は

答 今後も堤防の未整備地区等、国土交通省に要請していく



国により整備された導流堤

舟戸議員 現在、球磨村では、地域防災、治水対策など、さまざまな対策が計画されている。そこで豪雨洪水やそれらに伴う氾濫等に対処するには、ソフト対応が大変重要である。また、堤防やダムなどのハード施設による対応も重要だと思いが、その考えは。

柳詰村長 球磨川の治水対策については、これまで頻繁に家屋浸水が発生し、村内各地で、宅地等水防防災事業など、いろいろな整備が行われてきた。今後も堤防の未整備地区等について国土交通省に要望していく考えだ。

舟戸議員 食料調達計画で、大規模な災害が発生した場合の被害及び外部支援の時期を想定し、必要とされる食料、飲料水、生活必需品、燃料等の備蓄の状況は。

柳詰村長 村の防災計画でも、あらかじめ備蓄、調達体制を整備し、必要な物資の供給を円滑に実施する計画をしている。現在、熊本県の減災防災ソフト対策事業補助金を活用し、食料等の備蓄に努めている。

舟戸議員 村内の指定緊急避難場所として、小中学校屋内運動場が指定されているが、災害に伴い、災害用備蓄食品等の調理や災害時の炊き出し等に学校給食施設が使われること

はあるのか。

山口総務課長 これまで球磨村で起きた災害で学校給食施設が使われたことはない。

舟戸議員 本村では住民が健康で生き生きと暮らせる高齢者に優しい村づくりが進められ、高齢者の多様な就労の場の確保でシルバー人材センターの育成、支援がなされているが、シルバー人材センターの就労者の月平均の報酬額、そして上限、下限の基準はあるのか。

柳詰村長 平成29年度、月平均5万1,570円となっており、報酬の上限、下限の基準はない。

舟戸議員 シルバー人材センターに対して、働く場の斡旋、提供をされているが、近年の変化と課題は。

仮屋住民福祉課長 受注をする時期が集中する時と受注が少ない時期



舟戸 治生 議員

の差があり、年間を通して一定の配当金を得られないところ。

舟戸議員 ひとり暮らしの高齢者の現況把握については、民生委員の要項に基づき、地域の実情に応じて判断されていると思うが、適切に利用できるような情報提供はされているのか。

仮屋住民福祉課長 民生委員から相談が寄せられた際には、高齢者であれば、どういったサービスを受けているかといった、その方の問題を解決するために必要な情報は随時提供をし、連携を図っている。

舟戸議員 高齢者向け住宅の整備とともに重要なのが住みかえ支援制度であるが、高齢者の生活に適した賃貸住宅への住みかえを促進する時期に来ていると思うが。

仮屋住民福祉課長 国土交通省が所管事業として行っており、高齢者が高齢者向けの住宅に入居し、所有する住宅を賃貸や売却によって有効活用する事業であるが、現時点で球磨村で取り組むのは難しい状況である。

人口減少は鈍化傾向にあるが、 今後の推移は

答 元に戻る恐れがあり、危機感を持って移住・定住に力を入れる

小川議員 現状における人口ビジョンに示されている数値との比較、人口減少、高齢化率の進行度合い生産人口の推移は。

産人口減の鈍化傾向はこのまま推移していくのか、一過性のものか、その判断は。

柳詰村長 人口ビジョンは国勢調査に基づく人口調査であり、住民基本台帳の人口数値とは若干異なるが、総じて言えることは、人口減少は鈍化傾向にある。高齢化率や生産人口等についても同様と考える。このことは、しごと創生事業や住宅建設による移住・定住施策が功を奏していると考える。

柳詰村長 若い世代を残すための施策をしないと人口の増加あるいは鈍化の傾向にはならないと思う。今年は減少が元に戻る恐れがある。危機感を持って移住・定住施策に力を入れていきたい。

小川議員 新たな住宅に入居された方の村内、村外の比率は。

小川議員 人口減少は全国ほぼ全地点で続くと予想される。移住・定住施策としての新たな住宅建設が事業として成り立つのか見極めが必要と考える。空き家の増加も進む中での今後の考えは。

高永企画振興課長 28年度から29年度に建てられた村営住宅永崎団地8戸に20名が入居され、村内が6割、村外が4割程度と思う。

高永企画振興課長 生産人口の鈍化が人口減少の鈍化につながっている。しかし、出生者が年々少なくなっている。今後は出生をいかに増やしていくのかという方向性での事業展開

小川議員 人口減、高齢化率、生

産人口の鈍化



小川 俊治 議員

が必要。Uターンできる施策として単身向けの集合住宅的なものが必要と考える。

小川議員 次に、村活性化に向け取り組まれた施策の実績と評価。その中で継続すべき施策と見直すべき施策、新たな施策の考えは。

柳詰村長 第5次球磨村総合計画に沿って進めてきた。単年度で事業を行うものと複数年に及ぶ事業がある。その中で結果が出るものであり、この目標で進めていく。新たな施策は第6次総合計画で示したい。

小川議員 計画に沿って、見直す事業はないとのことだが、ヤマメ事業と棚田保存について今後の考えは。

高永企画振興課長 ヤマメ事業はしごと創生事業として行っている。

昨年の売上220万円、本年度600万程度を予測。今後は、創生協議会のアドバイス、検証しながら継続する。棚田耕作は田植え、稲刈りのオーナー制を実施しており、美しい景観事業として継続する。

小川議員 事業展開するうえで、各課を横断した全庁的な連携が大事だと思うが。

山口総務課長 連携し融合して、大きくなくて全体的な村の発展、住民福祉に繋げることが最も重要と思う。



子どもは村の宝 渡保育園運動会

村内各道路の改良改修は

答

豪雨災害対応で遅れもあるが、県との協議、要望をおこなって行く

東議員 村としても地域、農地に対する保全活性に向け施策取組まれているが、地域での利活用は。

柳詰村長 中山間地域において、農業の生産条件に関する不利を補正するための、中山間地域直接支払制度があり、9集落が協定結ばれている。

また、集落機能強化や地域活性化、持続的発展を目指す多面的機能支払交付金があり、5地区が協定を結ばれている。

東議員 気がかりとして、活動継続5年間の制約と、期間内での高齢化、労力の減少がある。期間中での協定内容の変更は可能か。

大童産業振興課長 この事業は、国で決っており、変更用件は5年1期、最初の年度となっている。

東議員 今の現状として、高齢化、担い手不足であり、個人での営農継続



中山間地域直接支払制度協定集落「大瀬」

続も難しい。今後も有効的な対策を願いたい。

東議員 近年、全国的に甚大な災害が発生している。地域の高齢化もあり、災害弱者という言葉も気になるところである。村内の自主防災に向けての現状及び対策は。

柳詰村長 球磨村は、78の集落が点在しており、地形の関係からも災害発生時、十分な救援活動が困難とな

る地域が出る恐れがあり、自主的初期防災活動が重要なことから、自主防災組織の育成及び活動の促進をしている。地区の特性に応じた活動を奨励していきたい。

東議員 大切な事は、自助、共助、公助がしっかり構築することが必要と思うが。

山口総務課長 今年も8集落から招聘があり、管理監から講話を行っている。

東議員 村内各道路の改良改修について。6年前、神瀬地区の国道で大きな土砂災害が発生し、復旧工事が行われていた。しかしその後土砂流出が起きており、地区の方々が自力で土砂の除去作業等、大変苦労されている。現地状況を伺いた

い。県道については、村内でかなりの草が茂っている。球磨川沿岸においては、ラフティング、鮎つり等により、大型車両の通行もかなり多く、安全面からも除草作業が望まれているが。

柳詰村長 神瀬内谷地区の国道については、現在の排水暗渠を7倍ぐらいにする工事を年度内に完了する予定のようである。除草については、災害の後処理で着手がおくれたと聞いている。県とも協議していくのご理解とご協力をお願いしたい。

東議員 村内の郷土芸能については、活動休止の団体が増えてきている。地域の芸能は、村の宝であり、後世に伝えることも大切と思うが。

戸屋教育課長 現在確認では、保存会は10団体あり、活動休止の団体が4団体である。

友尻教育長 この問題は、どうにかしなければとの強い思いを持っている。地域に入り話し合い等、持っていかねければと思う。



東 純 一 議員

7月6日～8日の豪雨時における 災害対応は



今後、さらに安全安心な村づくりを目指す

嶽本議員 球磨村においては、防災会議や球磨川タイムラインに力を入れるなど災害に強い村づくりに邁進されていることに力強さを感じている。そこで、7月6日から8日に降った豪雨時における村の災害対応は。

合、緊急車両等の対応は。

柳詰村長 冠水した場合、緊急車両は通れない。これまで、患者さんを担架で搬送したこともあった。その時々状況によって対応しなければと考えている。

嶽本議員 迂回路の重要性をすごく感じている。ガード下部分を陸橋にするような考えはないか。

柳詰村長 構想としては、陸橋にすることが1番いいとは思いますが、なかなか難しい状況である。迂回路での対応を国・県には要望している。

嶽本議員 今回の豪雨で通行止めとなった、中渡岳本間の災害復旧について伺う。

上部建設課長 県の報告では、延長20メートル、幅6メートル、高さ4メートルとなっており、国庫申請をし、査定を受けた後、災害復旧により復旧する計画であると伺っている。

嶽本議員 現場は急傾斜で危険な場所なので、早急に対応していただくよう再度お願いしておく。次に、この路線の迂回路である



嶽本 孝司 議員

東俣線の進捗状況は。

上部建設課長 着工したのが3年前、当初10年の開設計画だったが、国の補助事業で行っている関係で進捗が遅れている。今の進捗で行くと、15～20年ほどはかかる見通しである。

嶽本議員 村長と議会とがともに協力して要望活動をすることで、工期の遅れが解消できると考える。今後、ぜひ一緒にお願したい。

次に、各地区の自主防災組織の立ち上げは。

山口総務課長 現在、自主防災組織防災計画を作成している地区が3地区、その他、防災に関する活動、例えば防災マップの作成、要支援者の把握等を実施している地区は50以上あり、そのような取り組みをしている地域を含めて、役場としては防災組織として認識している。

ただ、平成26年度、災害対策基本法の改正により災害対策をより進めるということから、今後も引き続き、各地区において地区防災計画の作成をお願いしていきたい。

嶽本議員 村内には9名の防災士がおられるが、防災士の方の位置づけは。

柳詰村長 球磨村では2年ほど前に、消防署OBと自衛隊OB、15名ほどで防災協力隊を編成したが今後隊員が増えるような状況ではない。

そこで、今年も4～5名の方が熊本県が開催する防災塾に参加し防災士の資格試験を受ける予定である。ぜひ資格を取得していただき、防災協力隊と共に自主防災組織の指導、避難及び避難所の支援等に当たっていただければと考えている。

嶽本議員 自主防災組織については、防災協力隊や防災士を含めて各地区で作り上げること、より有効的な組織ができると考える。ぜひ全地区で地区防災組織をつくり、訓練を重ね、共助の村づくりの実現をお願いしたい。



冠水し通行止めとなるガードしたの道路

第7期介護保険事業計画・ 低所得者の負担軽減策について



答 計画に沿って実施していく

松谷議員 6月に行われた福祉有償連送運営協議会において対象者の見直しが行われたがその内容は

柳詰村長 これまでは要介護3～5の認定を受けた者とされていたが今回要介護1～5までと改定された。村民にとっても利用しやすい事業となったので、今後、広報活動を行い利用促進に努めたい。

松谷議員 次に、介護保険事業計画の中に、「介護サービスが必要でありながら経済的な理由で利用ができない」なかつたり、制限されることがないよう個別の事情に応じた利用者負担の軽減策を実施する」とあるが、その内容は

柳詰村長 村では介護保険制度にのっとり、高額介護サービス費の給付、高額医療・高額介護合算制度、特定入所者介護サービス費の給付、利用者負担軽減制度を実施している。その他にも、グループホームの家賃助成補助金等を実施している。

松谷議員 今の説明にはないが、介護者手当というのがある。平成29年度の成果報告によると5名の方が支給されている。ただ、この介護者手当の支給要件が大変厳しく申請に至らないのが現状である。

支給要件は、①65歳以上で寝たきり状態である者 ②身体障害者1級所持者で寝たきり状態である者

③認知症で常時介護を必要とする者 ④療育手帳A1所持者で寝たきり状態である者、おおむね寝たきり状態である者となっている。

また、もう一つの要件が3カ月以上在宅介護している者である。デイサービスを利用されている場合は対象から外れる。この介護手当の目的は、介護者の精神的、経済的な負担を軽減し、在宅福祉の向上に資することである。今後、在宅生活を支援するためにも、介護者手当の支給要件の見直しはできないか。

仮屋住民福祉課長 在宅で介護されている方の大変な状況は承知している。ただ、現時点での介護者手当の支給要件の緩和は考えていない。

柳詰村長 いろんな事業を行うに当たっては、条例に基づいて実施させていただきたい。

松谷議員 村民の気持ちを伝えていく。今はできなくても、検討をお願いしたい。

次に、第7期介護保険事業計画を作成するに当たりヒアリング調査を行っているが、今、不足しているところ

感じているサービスという質問に対して、村内のケアマネージャー6名中4名がサービス付高齢者住宅と答えている。介護サービスや介護予防サービスと併せて高齢者向け住宅の検討は本村において喫緊の課題ではないか。

柳詰村長 6月議会の答弁と重複するが、中山間である本村には、有料老人ホームやサービス付高齢者住宅等を整備する事業所を見込むことが困難なため、近隣市町村に整備されている施設の情報を提供することとしている。

松谷議員 有料老人ホームやサービス付高齢者住宅に入居するためには、ひと月10万円を超える費用が必要で、多くの高齢者の方は入居が困難と思われる。ぜひ生活支援ハウスが有効利用できるよう検討をお願いしたい。

次に、村内には6カ所の指定緊急避難所、23カ所の指定避難所、そして各地区の公民館が避難所とされているが、防災マップを見ると多くの避難所が危険箇所になっている。各

避難所の安全性は。

柳詰村長 避難所の中には土石流等の危険区域内に所在する場合もあるが、建物としての安全性は確認できている。災害の状態や災害発生の際に、地区内の公民館、あるいは指定緊急避難所への避難というように、より安全な避難所を住民の方に選択していただきたいと考えている。村としては球磨村復興まちづくり計画を策定し、避難所等の施設整備、防災力向上に向けた村民の意識改革等により、災害に強い村づくりを進めていく。

山口総務課長 公民館等の避難所については、ひとり暮らしの方など一時的に避難していただき、最終的にはより安全なところに避難していただくことが基本であると考えている。



松谷 浩一 議員

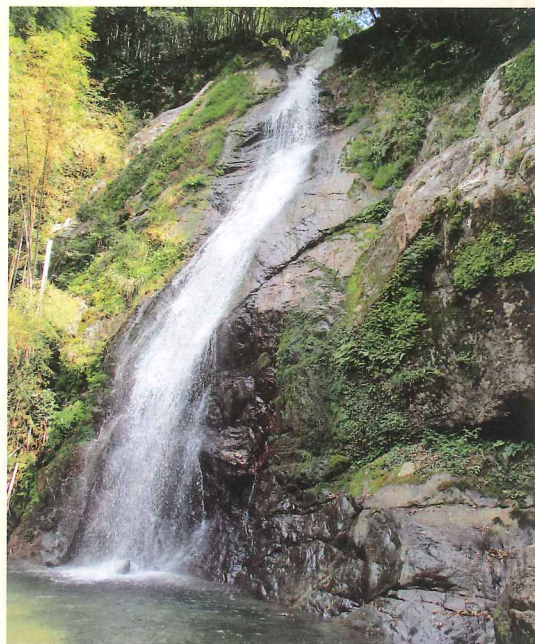


災害時避難所に設置してある案内板

ふるさとの味と、故郷の笑顔



例年にない暑い夏も終り、秋の虫声も大きくなって来ました。皆さんにとって、どんな夏だったでしょうか。今年も村内各地では、それぞれの夏祭りが開催されました。私は、川島地区のお盆に催される布ヶ滝祭りのソーメン流しに行きました。川島地区は、国道219号線より、約5km奥に入った所にあり、戸数は21戸、42名の方が住んでおられます。高齢化も進んでいるようです。地区内には、球磨村で最も落差のある布ヶ滝があります。滝の高さは30mもあり、マイナスイオンに包まれています。若者も少なくなった中で、苦勞も多いようですが、力を合わせ、協力しながら地区単独で40年もの間、祭りを続けておられます。思っても、なかなかできる事ではありません。住民も少なくなり淋しくなってきたけれど、せめて、盆ぐらいは故郷に帰って来た友と、「おかえり」「元気やったかい」と笑顔で言葉を交わし、地区を明るくしたい。また、ふるさとに帰る楽しみを持ち続けていてもらいたいとメンバーの代表の方が言っておられました。



頭がさがる思いです。これからもずっと続けていただくことを願いつつ。流れて来るソーメンと笑顔を楽しみにしています。

東 純一

編集後記

今年「猛烈な……」という言葉が何回あったことか。地震、台風、豪雨、日本全国、どこで何が起きるかわかりません。せめてこれから訪れる冬ぐらいは穏やかであって欲しいと願いたい。

「今までに経験したことのない」という言葉が度々出て来ます。私達も熊本地震で、不安と恐怖を覚えました。何事も、備えあればの気持ちが必要なことかなと感じるこの頃です。

東 純一

議会広報特別委員会

委員長	小川 俊治
副委員長	犬童 勝則
委員	東 純一
委員	松谷 浩一

■球磨村世帯数:1,493世帯 ■人口:3,724人 男:1,768人 女:1,956(平成30年10月1日現在)